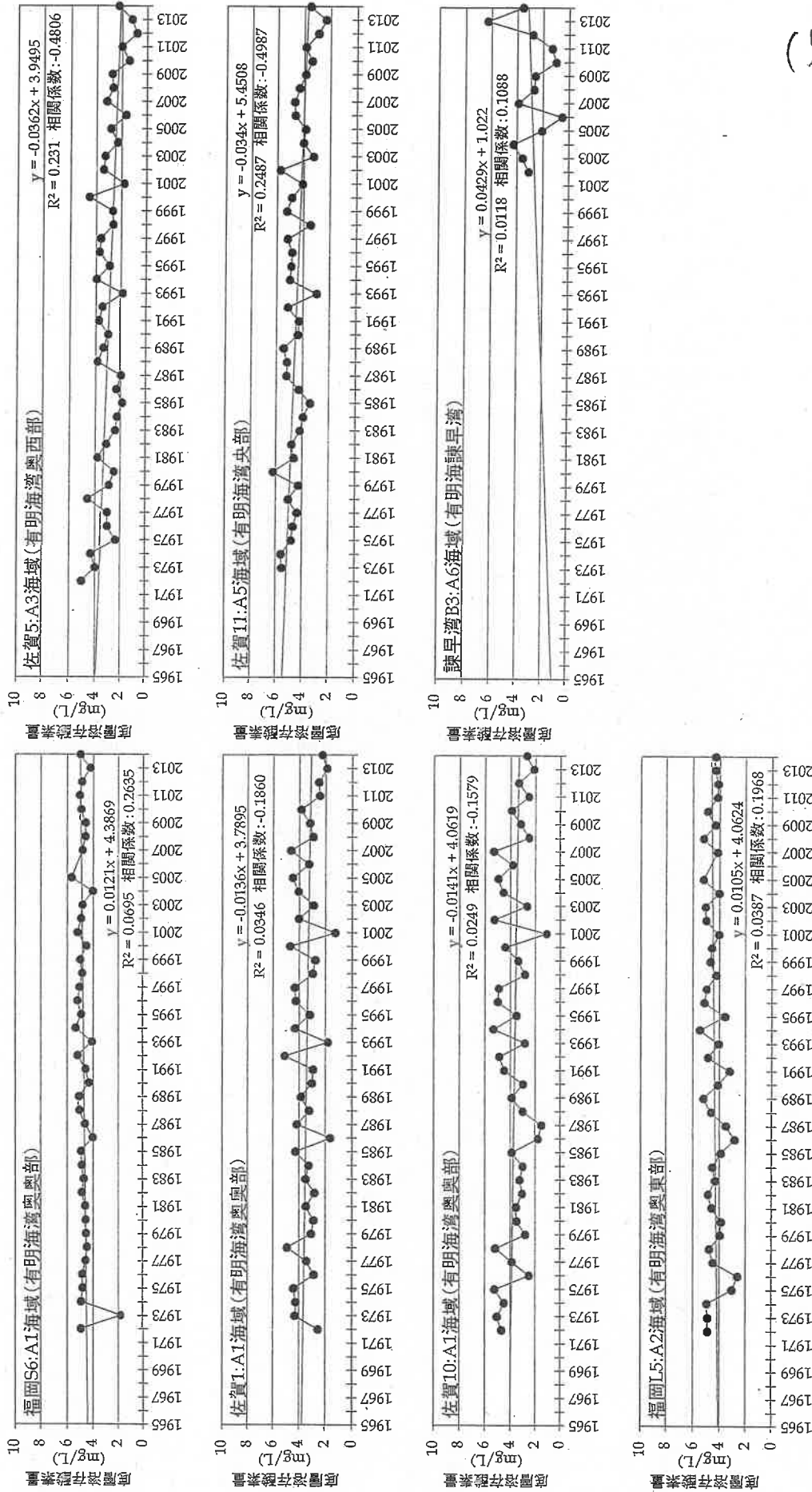
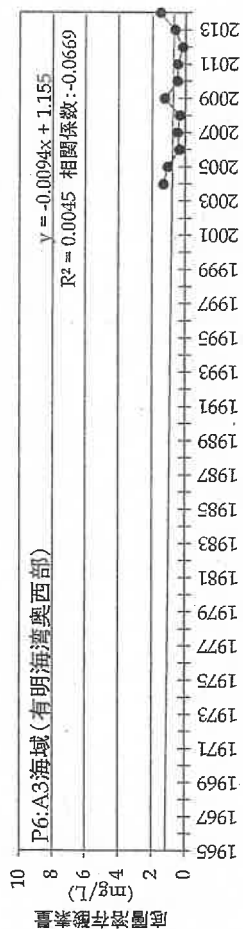
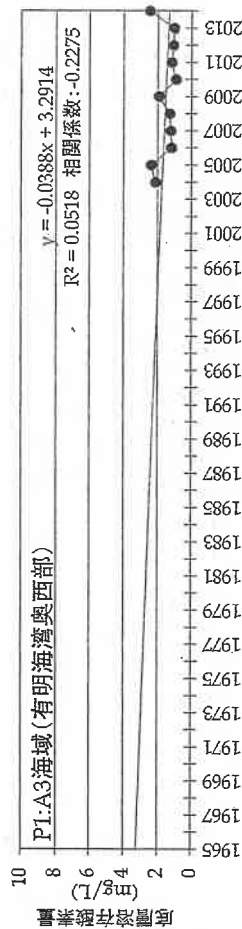
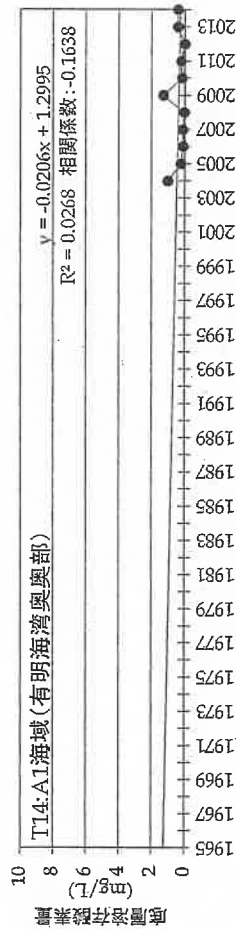
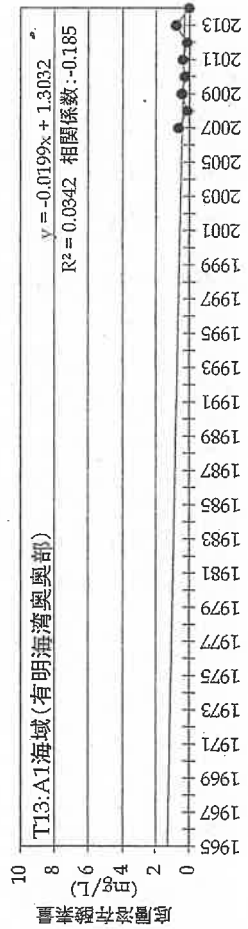
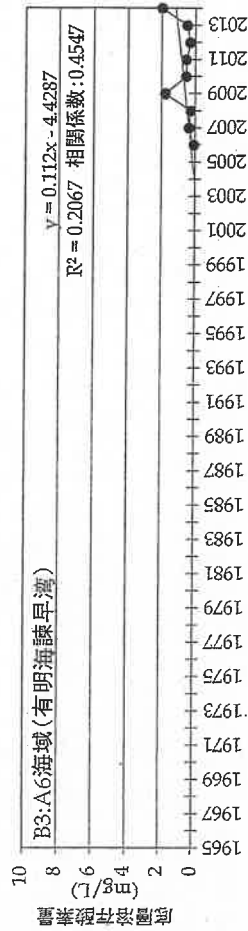


(別紙31)



出典：福岡県，佐賀県「浅海定線調査結果」、農林水産省九州農政局「諫早湾干拓事業環境モニタリング調査」をもとに環境省が作成した。

図 3.6.2 底層溶解酸素量の経年変化[有明海] (年間最低値)



出典：国立研究開発法人 水産研究 教育機構 西海区水産研究所「有明海水質連続観測調査結果」、農林水産省九州農政局「有明海貧酸素水塊広域連続観測結果[諫早湾]をもとに環境省が作成した。

図 3.6.3 底層溶解酸素量の経年変化[有明海：連続観測] (日平均値の年間最低値)

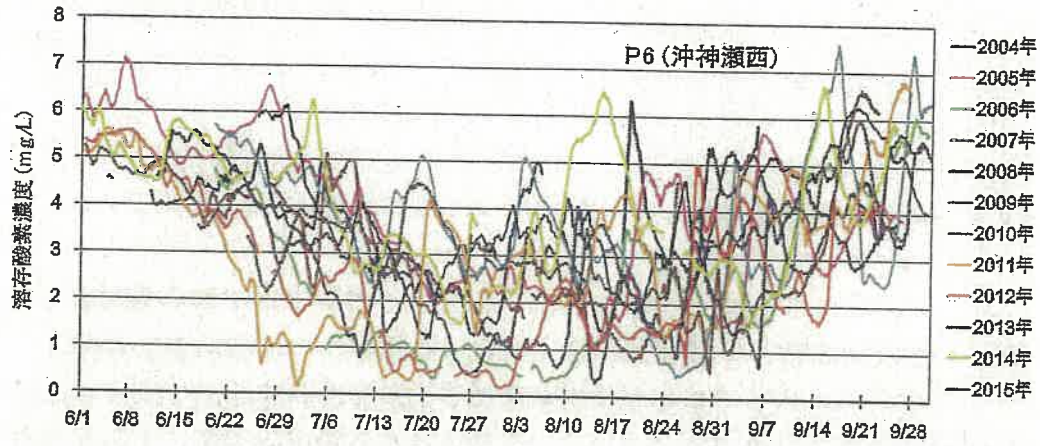
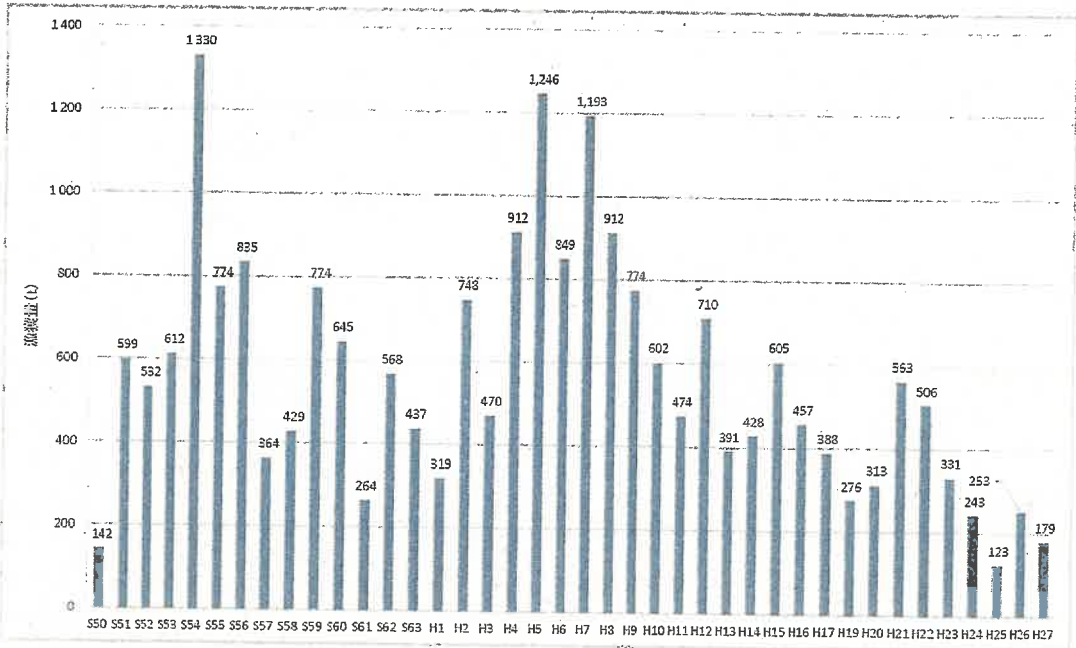


図 3.6.11 有明海湾奥部の定点 P6 の海底上 0.2m における溶存酸素量の変動の経年変化

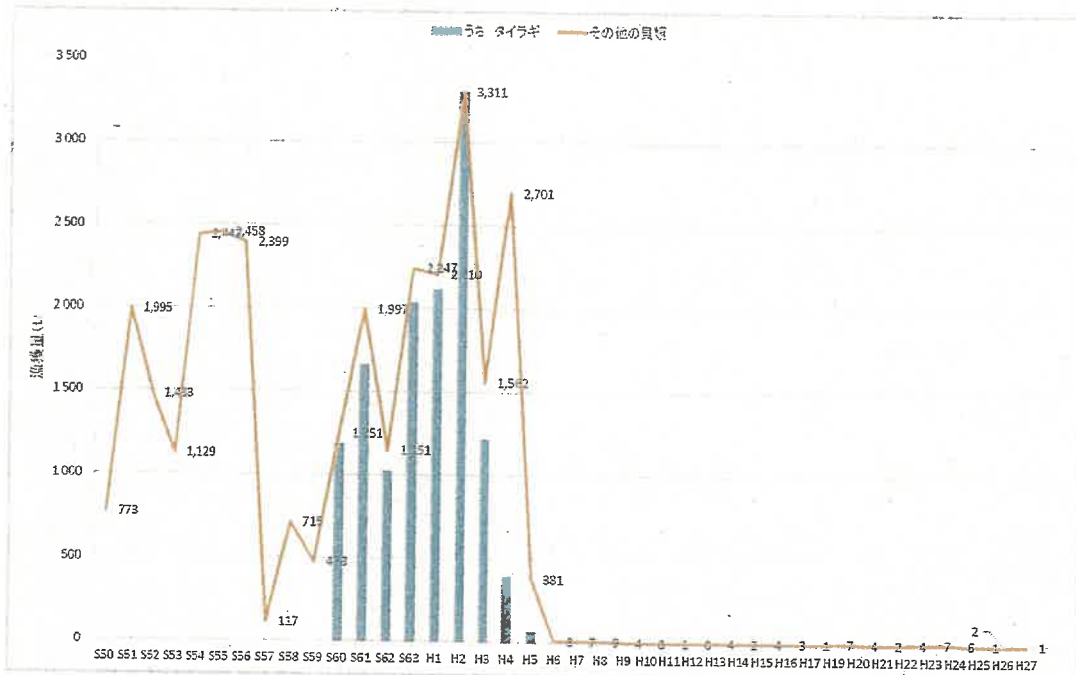
出典：西海区水産研究所提供

○「アサリ類の漁獲量の推移」



(注) 昭和60年から平成18年までを除く期間については、「南高多比良地区」の漁獲量も含まれる。

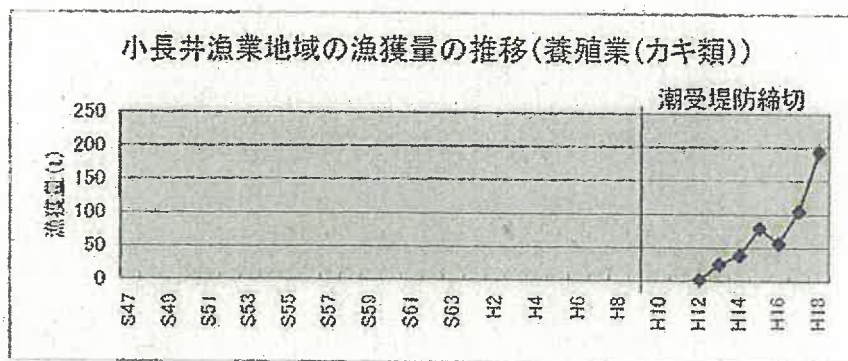
○「その他の貝類及びタイラギの漁獲量の推移」



(注1) 「その他の貝類」(タイラギ含む)については、平成18年以降の分類に合わせるため、平成17年までは、「アワビ類、サザエ、アサリ類」以外の貝類も計上。

(注2) 「タイラギ」の漁獲量については、昭和59年以前の統計数値は不明。

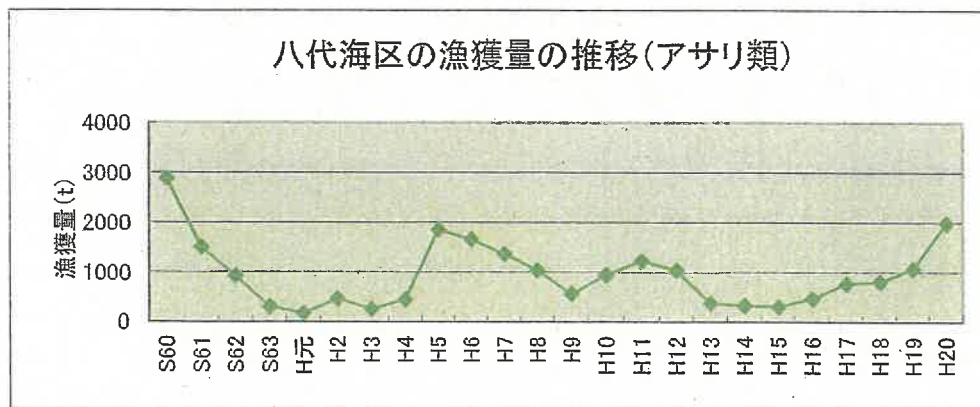
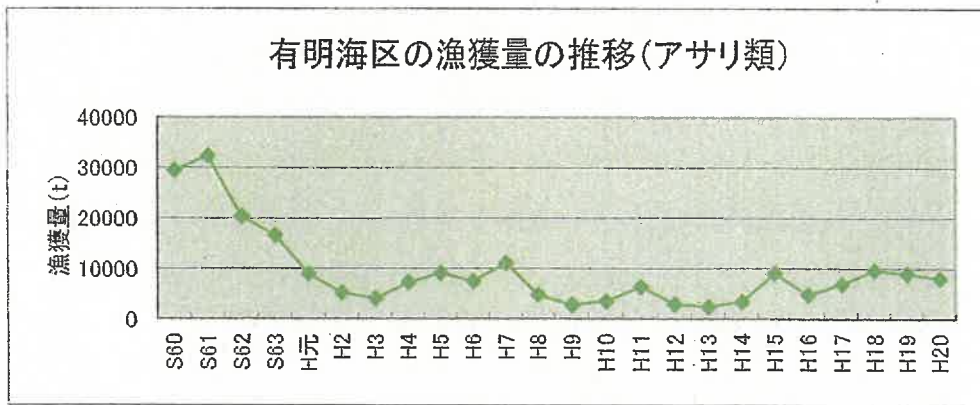
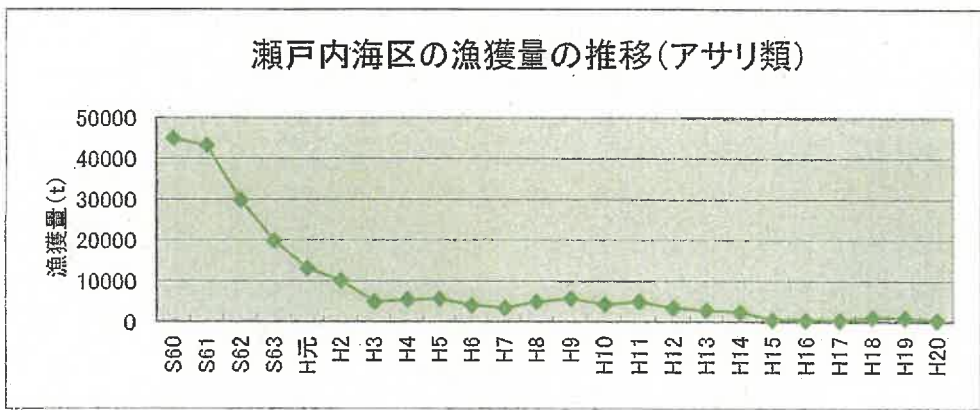
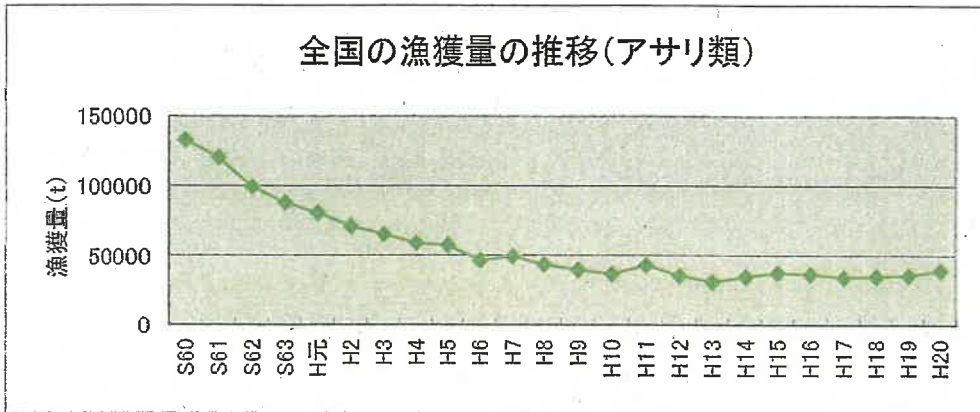
(注3) 昭和60年から平成18年までを除く期間については、「南高多比良地区」の漁獲量も含まれる。



作成年月日：平成21年2月6日

作成者：農林水産省九州農政局

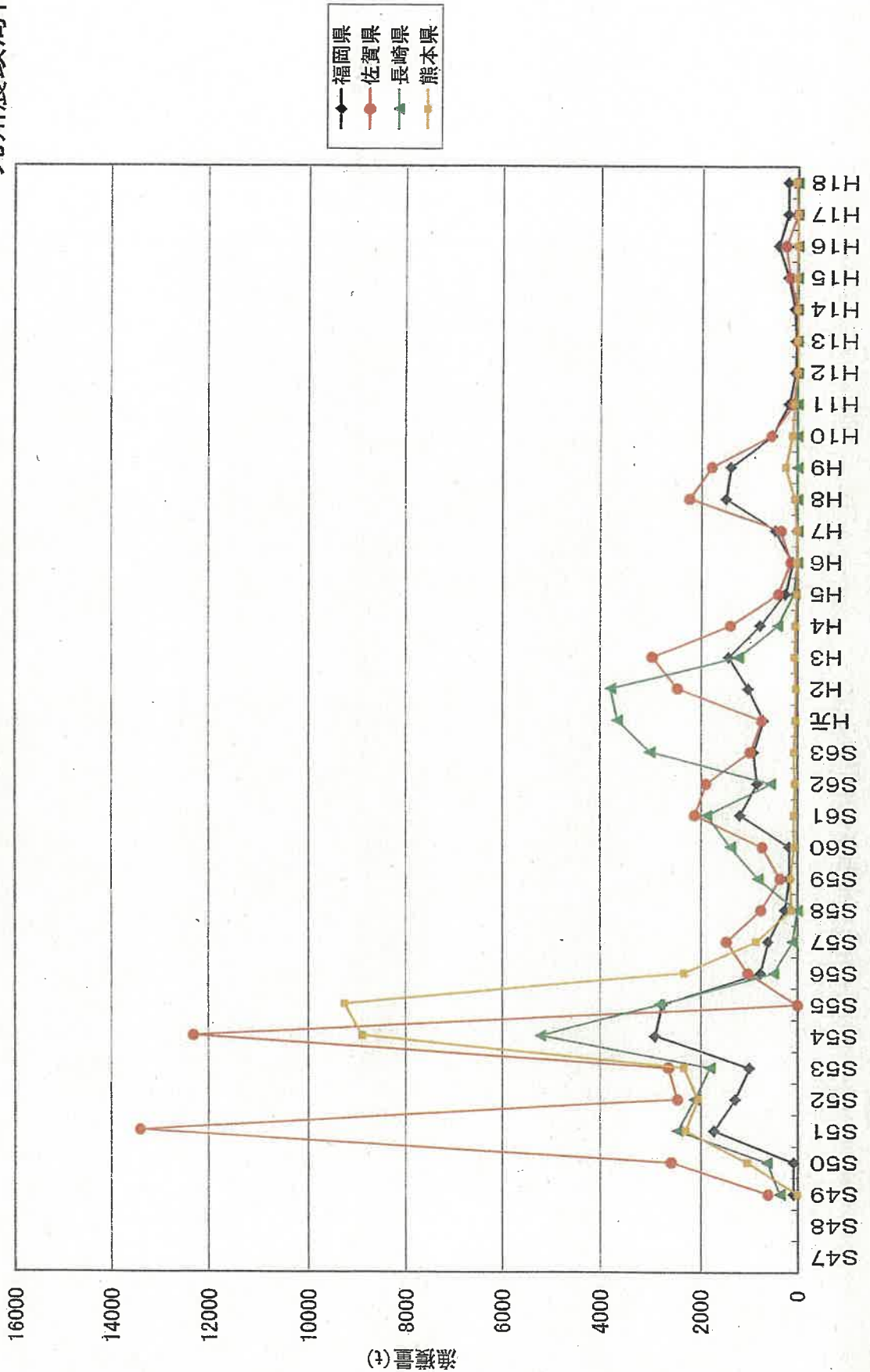
<アサリ類>



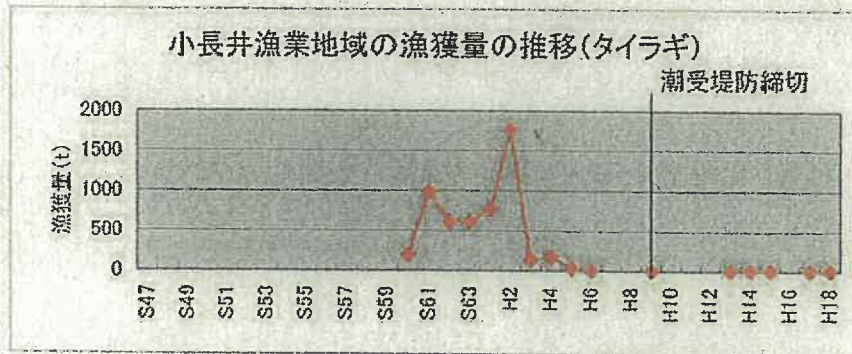
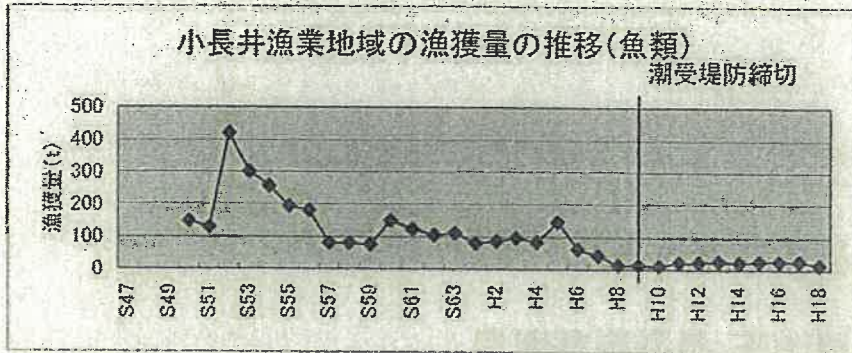
(別紙 37)

平成22年7月  
九州農政局作成

有明海区の漁獲量の推移(タイラギ)

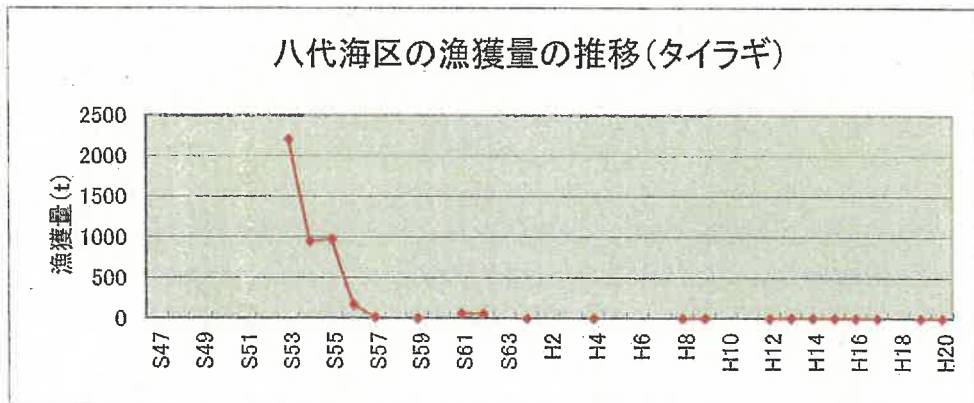
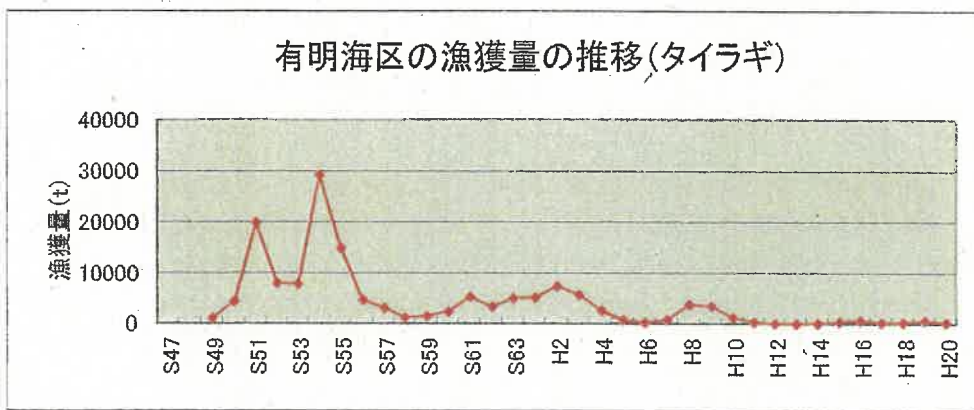
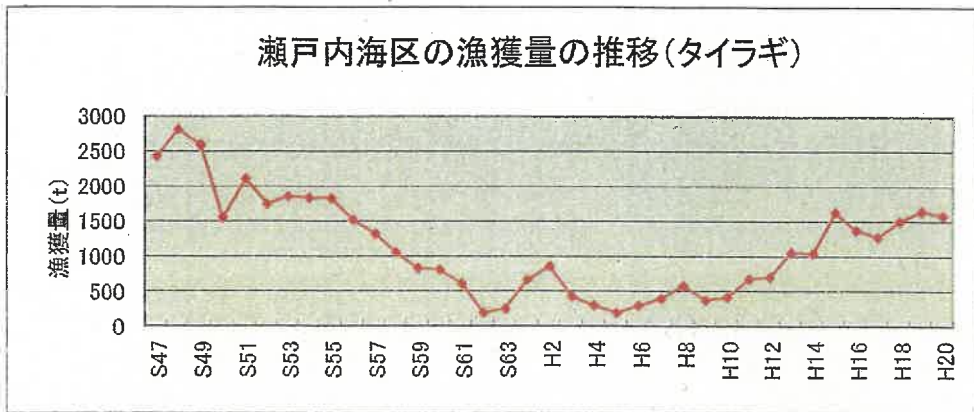


<小長井漁業地域>



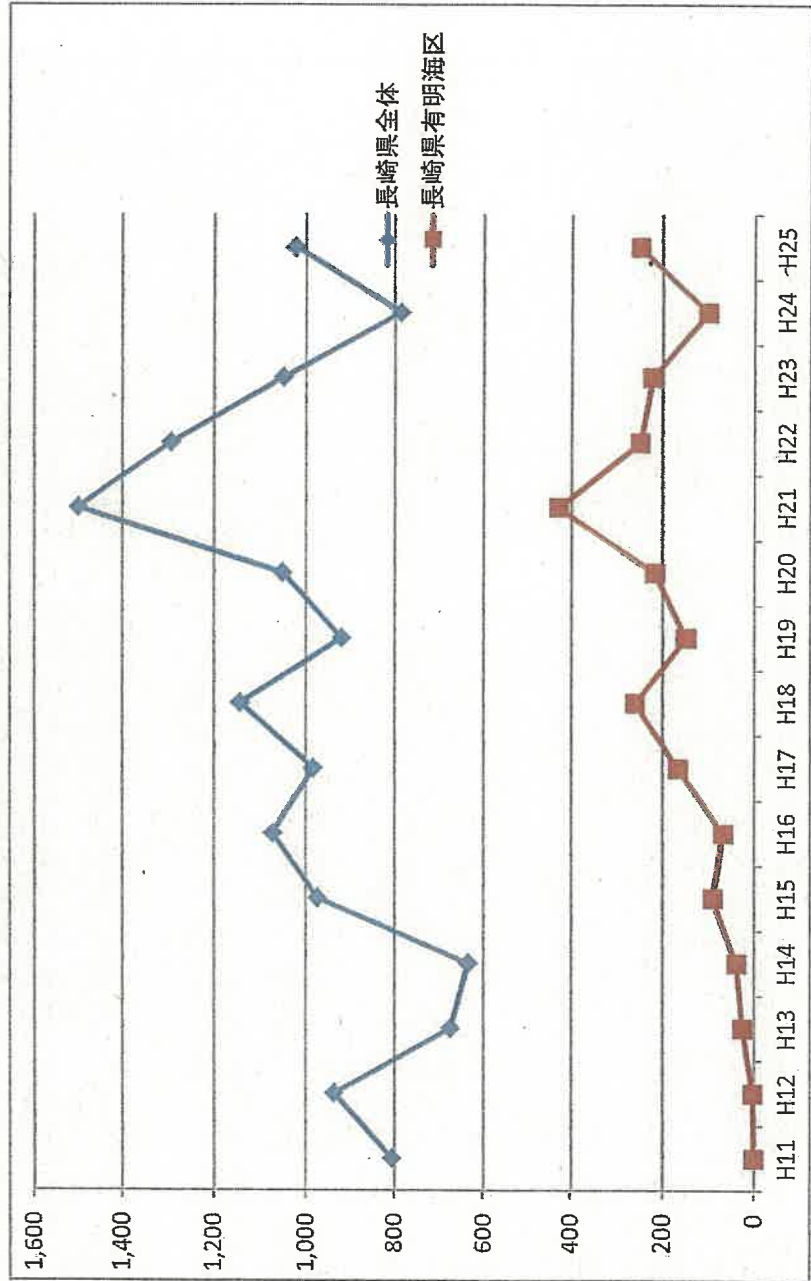


<タイラギ>



(別紙40)

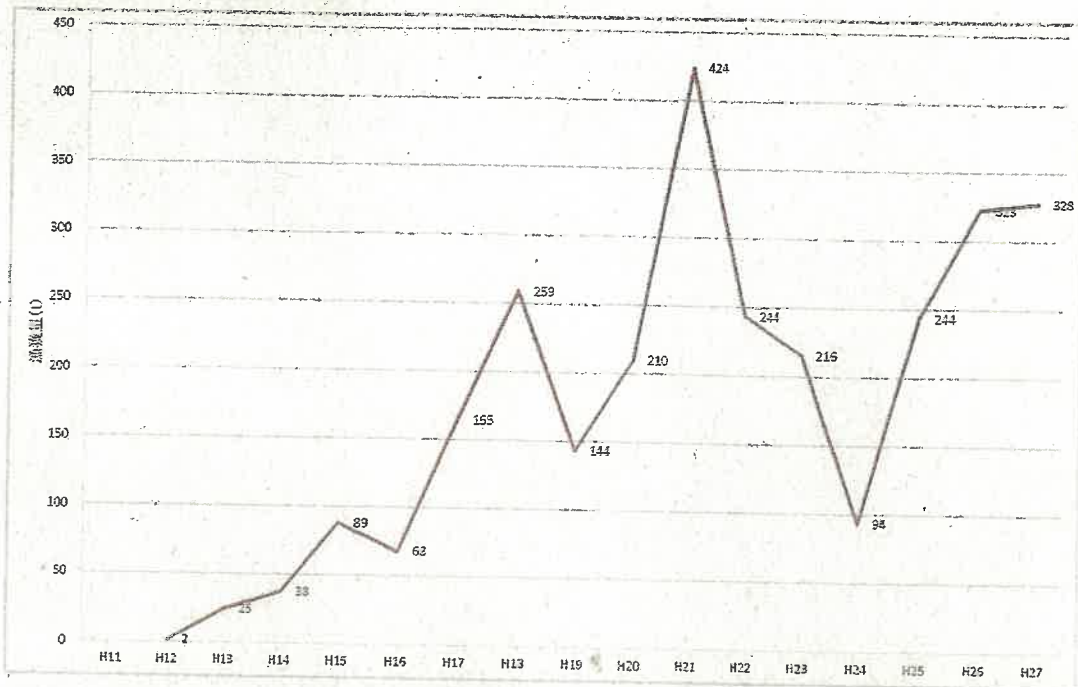
平成11年ないし平成25年の養殖かきの漁獲量



養殖かきの漁獲量(単位 t)

平成27年 7月 九州農政局農地整備課作成

○「養殖カキの収穫量の推移」

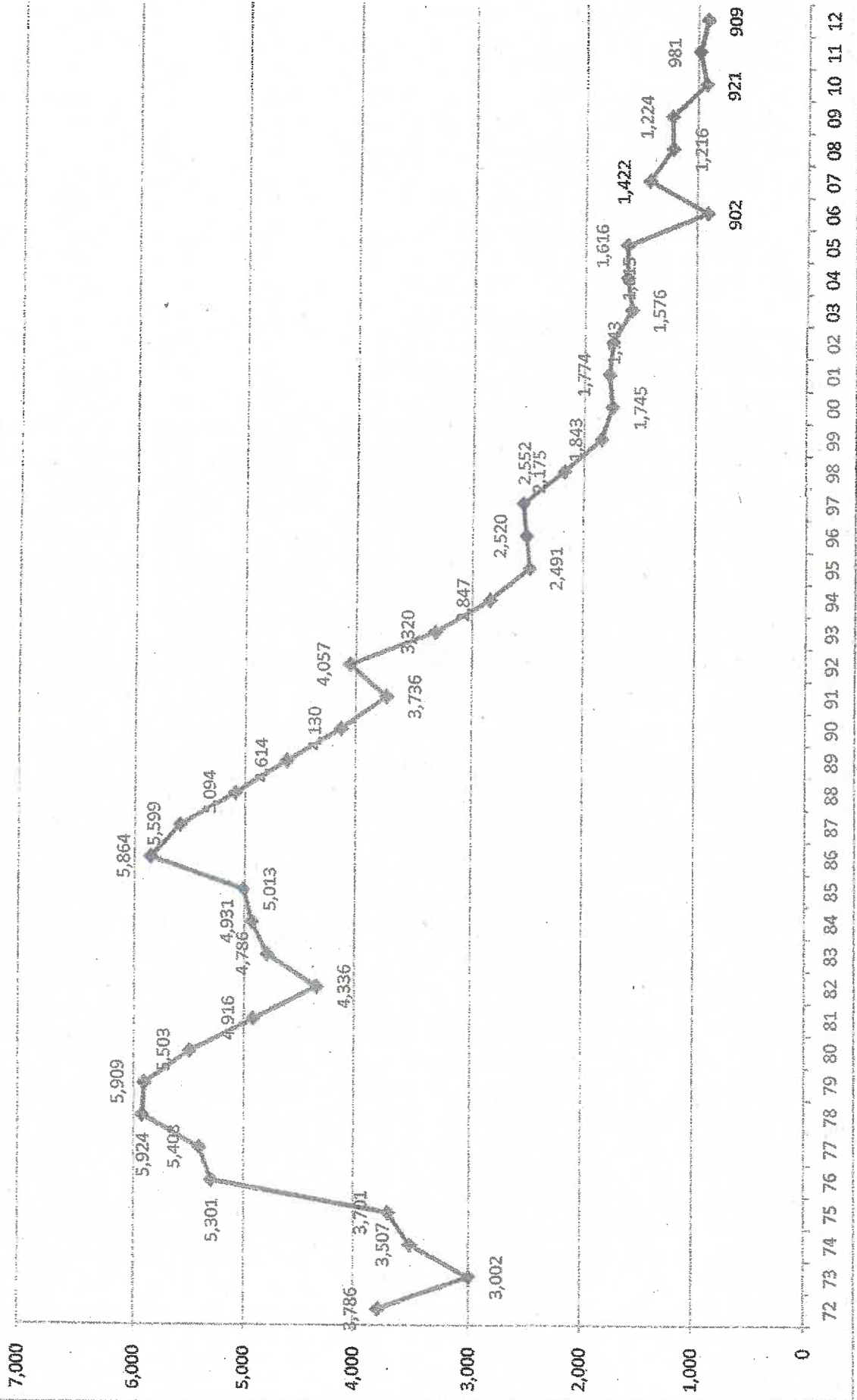


(注1) 平成11年については、別添資料1において「x」とされているが、これは経営体数が2以下であるなど、秘密保護上、統計数値を公表しないとされたものである。

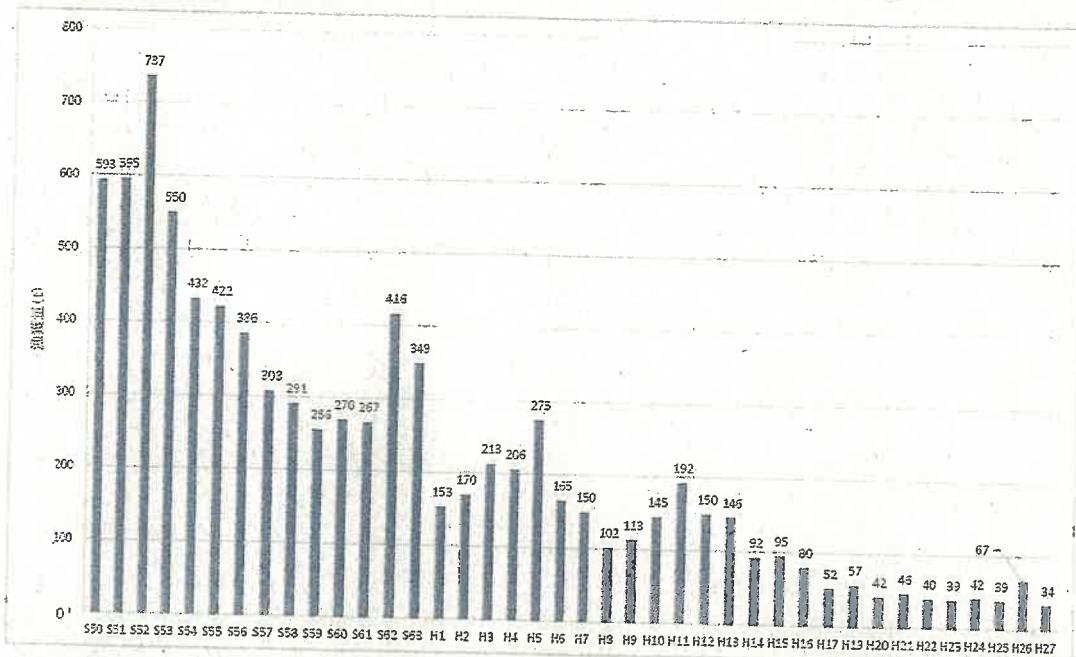
(注2) 平成16年から平成18年までは、かき類養殖業の小海区別「有明」の数値を計上。

以上

②長崎県(有明海区)・魚類

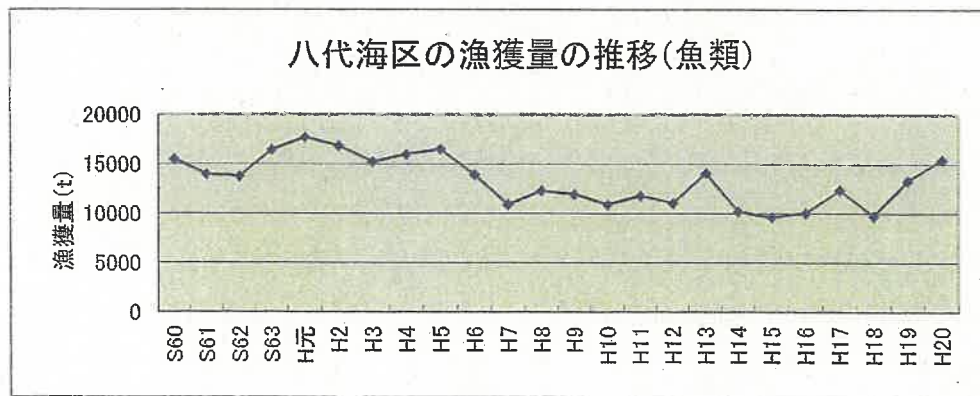
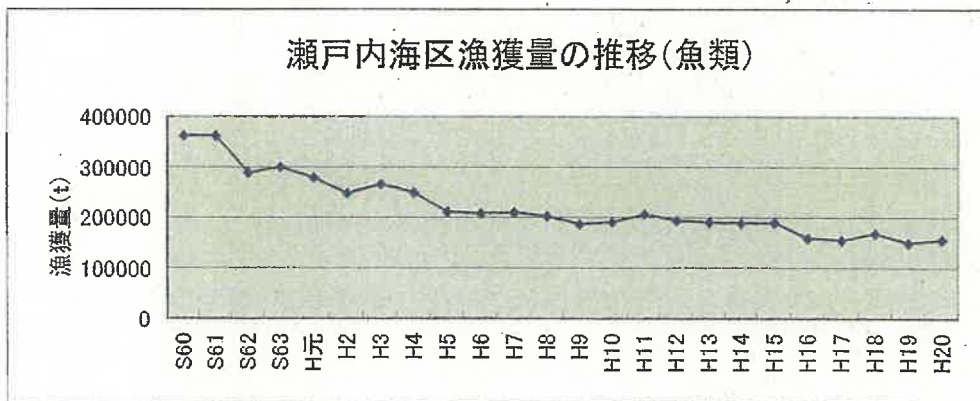
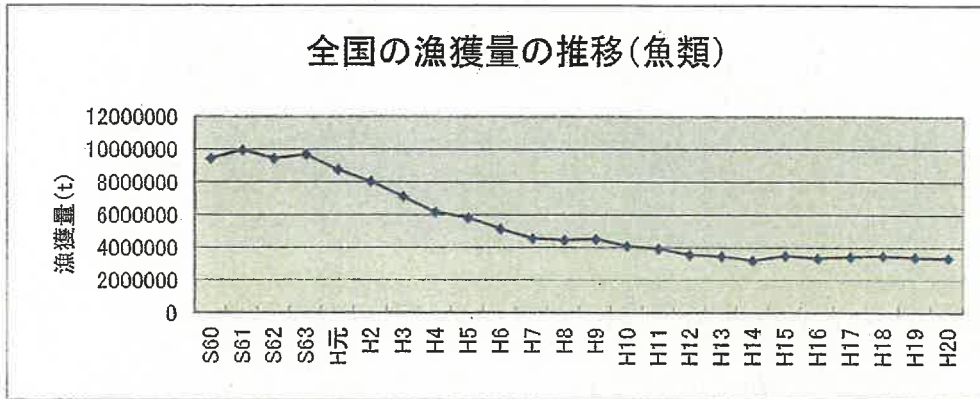


○「魚類の漁獲量の推移」



(注) 昭和60年から平成17年までを除く期間については、「南高多比良地区」の漁獲量も含まれる。

<魚類>



(別紙45)

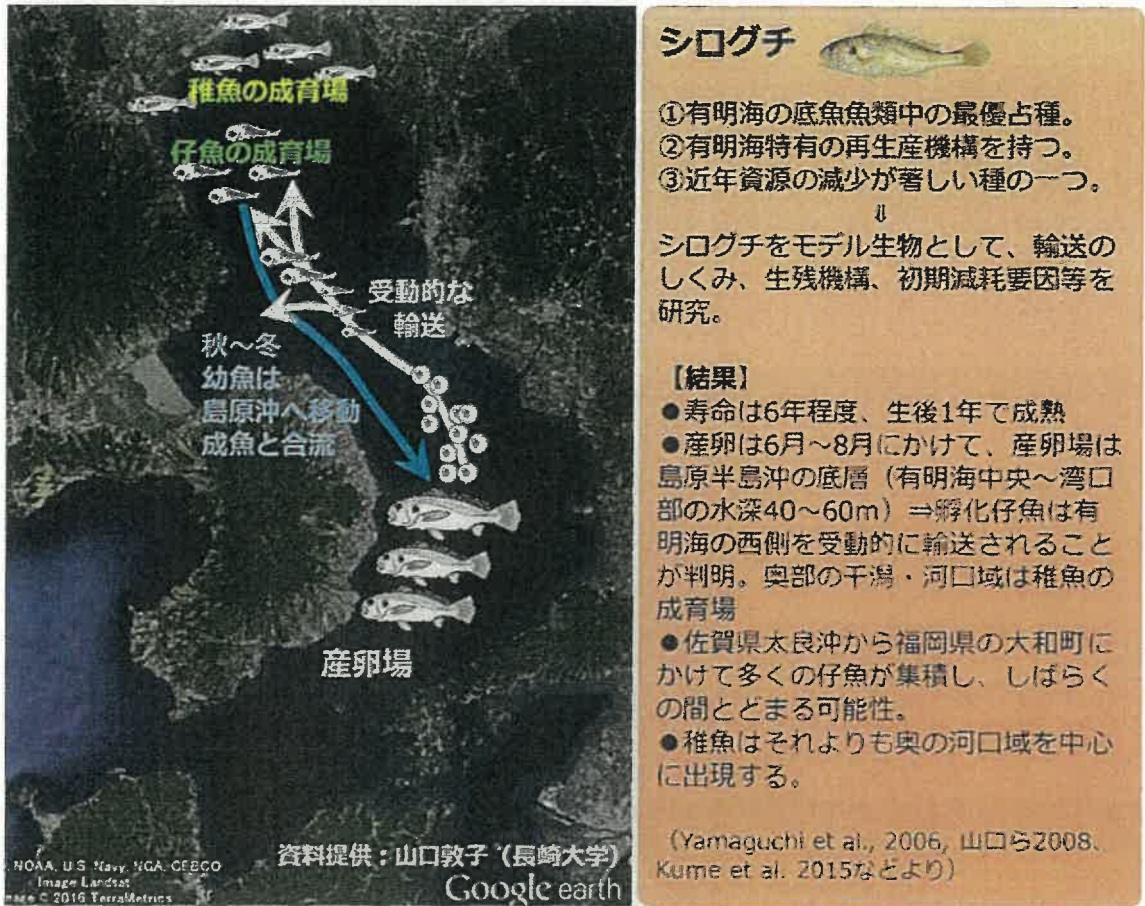


図 4.4.141 シログチに代表される再生産機構

出典：長崎大学・平成19～21年度等

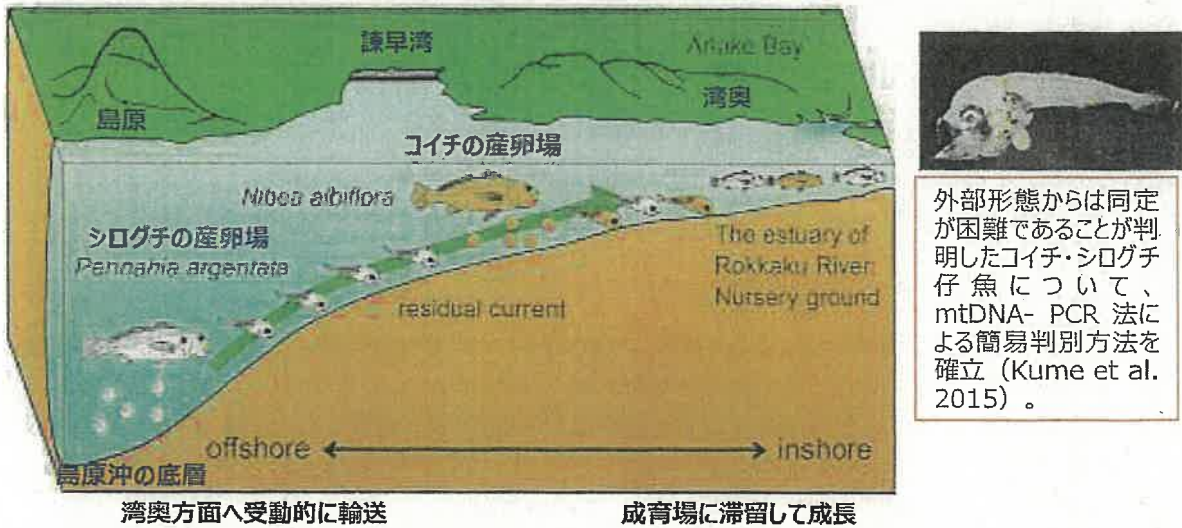


図 4.4.142 フィールド調査とDNA分析等により明らかになったシログチ・コイチの卵・仔魚輸送機構と成育場

出典：山口・長崎大学提供資料



図 4.4.143 デンベエシタビラメの生産機構  
 出典：長崎大学・平成 19～21 年度等

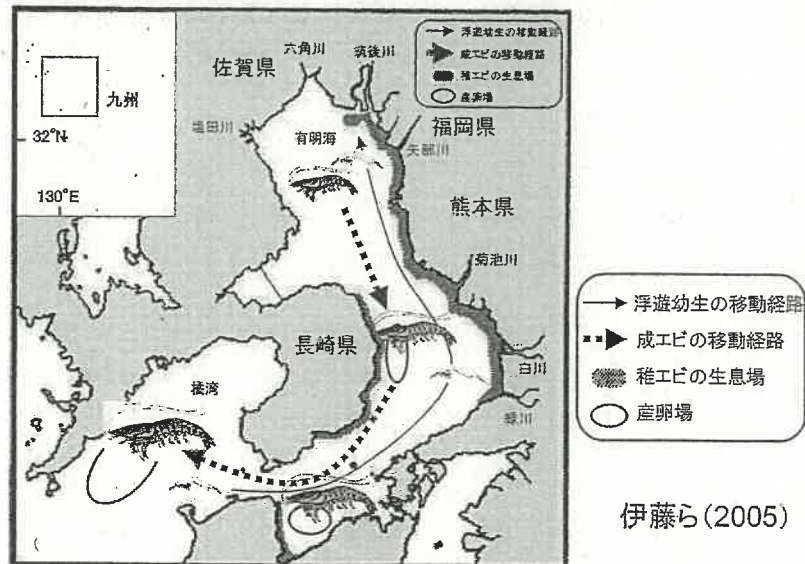
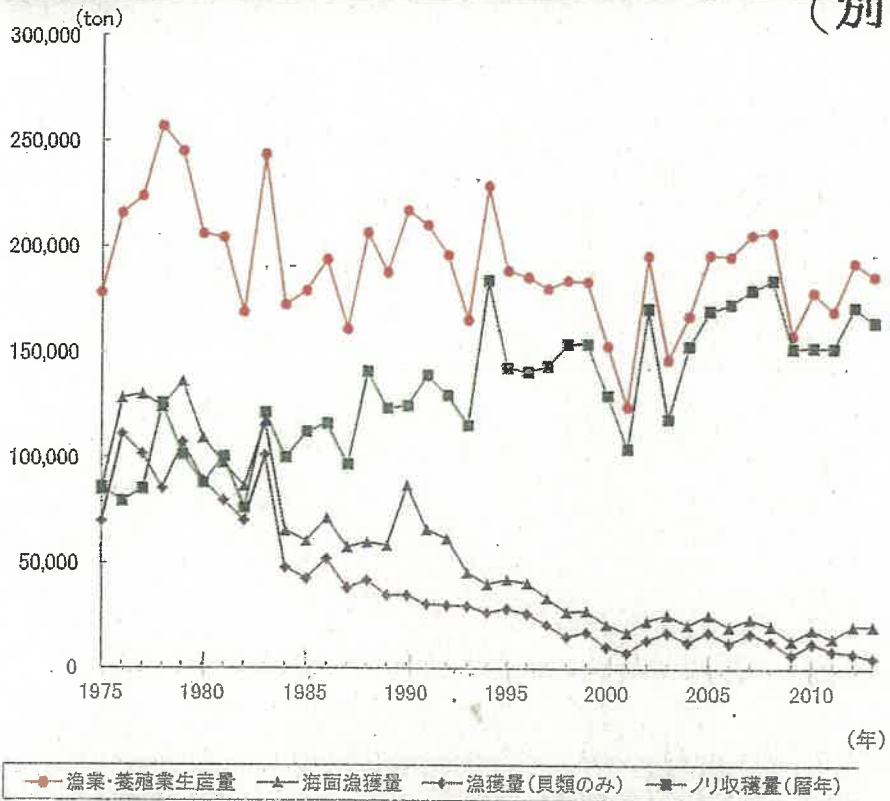


図 4.4.144 クルマエビの産卵場所と稚エビの出現場所

出典：中田英昭(2005)「第17回有明海・八代海総合調査評価委員会  
 資料-2 水産資源に関するとりまとめ(2) 主に魚類資源について」





- 注) 1. 福岡県の養殖生産量は、2010年以降は集計不可となっているため2009年の値とした。  
2. 福岡県のノリ収穫量については、2009年以降は集計不可となっているため収穫量(枚)に0.033を乗じて算出した。  
3. 長崎県のノリ収穫量については、2012年以降は集計不可となっているため収穫量(枚)に0.037を乗じて算出した。

図 3.9.16 有明海の漁業・養殖業生産量

出典：農林水産統計をもとに環境省が作成した。

別添 2

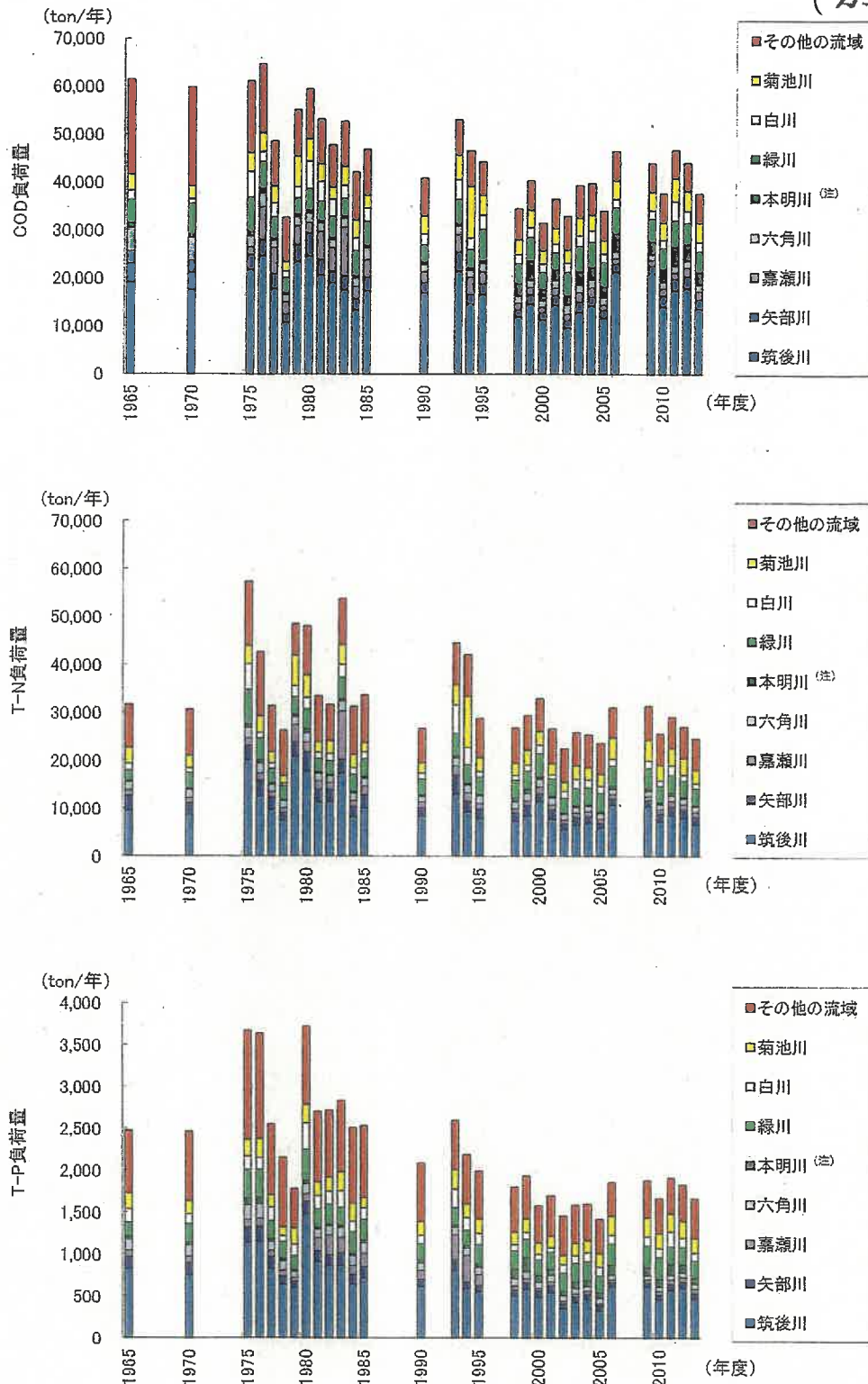
漁業種類別漁獲量、水揚高 (海苔養殖)

瑞穂漁業協同組合

		漁獲量(枚)											
第1	18	漁業者	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
		A22	395,300	259,200	779,800	507,700	514,100	706,300	718,200	1,542,700	527,200	1,198,600	

		水揚高(円)											
第1	18	漁業者	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
		A22	2,815,226	2,675,468	5,570,384	3,347,789	4,927,810	4,475,030	5,050,673	13,054,566	4,011,310	9,413,835	

(別紙 48)



注) 1995年までは、グラフ中の「本明川」の項目に本明川流域(図3.1.3参照)からの負荷量を算定し、本明川流域以外から諫早湾(有明海)に流入する負荷量は「その他の流域」の一部として算定している。一方、1998年以降は、「本明川」の項目に諫早湾干拓事業の潮受堤防排水門からの負荷量(調整池の水質と排水量より算定したもの)を記載しており、1998年度以降は他の河川からの流入負荷量と算定方法が異なるため、河川からの負荷量と排水門からの負荷量について単純に比較できないことに留意する必要がある。

図 3.1.5 有明海への流入負荷量の経年変化